第３次豊田市地域福祉計画・地域福祉活動計画に向けてのテーマ別ワークショップ

「地域の担い手づくり（地域人材）」報告資料

１　ワークショップの内容

（１）　趣旨

第２次豊田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の改訂において、「地域福祉人材の登録・マッチングなど活動支援の仕組みづくり」を重点取組に加えた。

第３次計画においても引き続き地域の担い手づくりを重点取組に位置付け、今までの検討内容を更に具体化していくためワークショップを実施する。

（２）　主催

豊田市社会福祉協議会（共生推進課・くらし応援課）
豊田市（地域包括ケア企画課）

（３）　回数・日時

第１回：令和６年１２月２６日（木）午前１０時～正午
第２回：令和７年　１月３０日（木）午後２時～４時

（４）　場所

豊田市福祉センター　４階　41 会議室

（５）　参加団体

ボランティアセンター運営委員会委員、とよた市民福祉大学運営委員会委員、豊田市自主防災会連絡協議会、中間支援連携のためのコア会議参加団体、学生（社会参加バンク）、musbun（むすぶん）

［中間支援連携のためのコア会議参加団体（順不同）］

No.	団体名	No.	団体名
1	トヨタ自動車（株）	7	（公財）豊田市青少年センター
2	トヨタ紡織（株）	8	（一社）おいでんさんそん
3	（株）デンソー広瀬製作所	9	（一社）豊田青年会議所
4	（公財）あすて	１０	豊田市ボランティア連絡協議会
5	（公財）豊田市国際交流協会	１１	とよた市民活動センター
6	（公財）豊田市文化振興財団　交流館課	１２	豊田市役所　市民活躍支援課

（６）　内容等

回	日程	内容
第1回	12 月 26 日（木） 午前 10 時～正午	**報告** ・「市民アンケート」、「関係機関へのヒアリング」結果 ・「アンケート・ヒアリング結果から整理した機能」 ・「担い手づくりの方向性」
第1回	12 月 26 日（木） 午前 10 時～正午	**グループワーク** 整理した機能ごとにやれると良いこと、取組団体・企業でできること **地域福祉活動計画策定委員からのコメント**
第2回	1 月 30 日（木） 午後２時～４時	**第１回の振り返り** **グループワーク** ・機能ごとの社協としての取組についての意見 ・団体、企業でできること **地域福祉活動計画策定委員からのコメント**

２　ワークショップ等の実績等

（１）　ヒアリング

・令和６年に１０月～１１月に下記２４団体へヒアリングを実施

［ヒアリング団体］

（株）musbun	豊田市　地域支援課	あすて
（公財）豊田市国際交流協会	豊田市　市民活躍支援課	愛知県立豊田東高等学校
豊田市ボランティア連絡協議会	豊田市　高齢福祉課	（学）豊田大谷高等学校
母子保健推進員の会	豊田市　こども家庭課	とよたシニアアカデミー
とよた市民活動センター	豊田市　保育課	とよた市民福祉大学
（公財）豊田市文化振興財団 豊田市青少年センター	豊田市　健康づくり応援課	（公財）豊田市文化振興財団　交流館課
とよた学生プロジェクト	おいでんさんそんセンター	とよた学生盛り上げ隊
じっくり傾聴チーム	トヨタ自動車（株）	豊田市健康づくり協議会

必要な機能をワークショップ前に整理

機能	意見（一部）
❶　**啓発・発掘**	新たな層（若者・現役世代）へのアプローチにはハードルを下げる仕組みが必要
❷　**育成・養成**	育成・養成に関する内容は充実しているが情報の整理と体系化が必要
❸　**登録**	登録の一元化（情報の共有化）が必要。 データベースだけでなくネットワーク機能で補完する仕組みも必要。
❹　**マッチング**	活動につなぐ仕組みが必要で、アプリにような気軽さと丁寧なコーディネートの２段階の検討が必要 ニーズの掘り起し、受け皿づくりも必要
❺　**定着** **・フォロー**	フォローアップやスキルアップできる体制や講座が必要 また、つないで終わりではなく、その後のフォローも必要 同窓会や組織化などのネットワーク化も必要
❻　**ネットワーク**	上記①～⑤を行っていくうえで、土台となる関係機関・団体のネットワークが必要

（２） ワークショップ

① 参加人数

実　20 人、延べ　34 人

② 当日の様子

③ 出された意見

・ヒアリングで整理した機能及び意見からテーマを設定して、具体的な取組について、ワークショップで意見聴取

機能	テーマ	具体的な取組（主な意見）
❶啓発・発掘	新たな層（若者・現役世代）へハードルを下げる仕組み	・窓口への相談や電話をする事はハードルが高い。 ハードルを下げる仕組みとしてアプリの活用や体験の機会があると良い。 ・情報発信やかかわり安さとして、HP・インスタ。特にインスタは効果的。
❷育成・養成	育成・養成に関する情報の整理と体系化	・情報も分野を広く、多様な情報を届ける事で、受け取る側は選択肢が広がる。 ・学校がある程度のまとまった情報を一斉に発信してくれると友人と相談しやすい。
❸登録	登録の一元化 （情報の共有化）	・登録のハードルを下げる。2 段階の方式。活動者の層（ライト層、若者層、シニア層）に合わせた登録方法が必要。 （例）登録だけの方は、QR コード、HP、LINE などから登録。 保険加入される方は、窓口必須。　など ・LINE 登録（プッシュ型の情報発信につながる）
❹マッチング	活動につなぐ仕組み	・プッシュ型の情報発信　※マッチングにつながる可能性を広げる。 ・やりたい側だけでなく、やってほしい側・困っている側の双方が必要。やってほしい側・困っている側もコア会議に呼ぶ。 ・マッチングの場に出す前に、困りごとの内容を明確化しておく必要がある。 ・地域の声は、交流館に届いている。しかし、どこにその声を結びつけたらよいか。 コア会議では各団体が何をやっているか不明。
❺定着・フォロー	・フォローアップやスキルアップできる体制や講座	・ジャンルの同じ団体のメンバー同士が、グループラインで活動についての意見交換等を行っている。 ・幅広いジャンルの話を聞くことで、視野を広げられる機会になる。
❻ネットワーク	上記①～⑤を実施するための、土台となる関係機関・団体のネットワーク	・コア会議の参加団体の拡大（やってほしい側・困っている側の意見） ・若者や学生の参加による困り側と若者や学生のマッチングできる機会があると良い。 ・コア会議の参加団体の拡大に伴い、日程変更も必要。（若者・学生の参加） ・コア会議が情報提供だけの場になってしまっているが、せっかくなら交流し、顔の見える関係が気付ける場になるといい。 ・コア会議は 2 か月に 1 回開催しているが、コア会議に来ないと情報が取れないし、情報が古くなる。掲示板のようなリアルタイムで情報を発信・受け取る仕組みが必要。

３　今後の取組内容（Ｒ８～Ｒ１３）

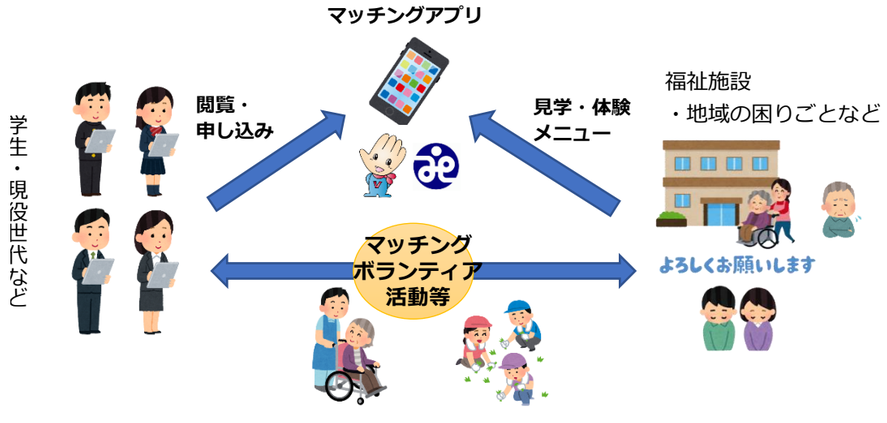
第３次計画期間中（Ｒ８～Ｒ１３）に下記取り組みを実施する。

❶　啓発・育成

新たな層（若者・現役世代）へハードルを下げる仕組み

・ボランティア体験等を**マッチングアプリ（point❶）**で実施
※従来の窓口での相談対応に加え、マッチングアプリも行っていく。

福祉施設や地域の困りごと、依頼事項などを社協に連絡。もしくはマッチングアプリに掲載。学生や現役世代をはじめとした市民が、マッチングアプリを閲覧し、希望の活動等があれば申込み。ボランティア活動へとつなげていく。

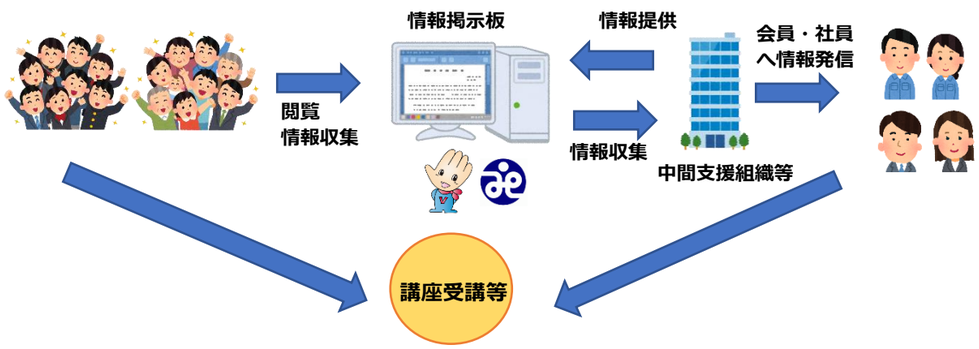


❷　育成・養成

育成・養成に関する情報の整理と体系化

・整理した情報の集約と広く情報発信できるツール**「情報掲示板」（point❷）**の運用

中間支援組織等により「情報掲示板」へ情報提供。
その情報を市民や学校が閲覧・情報収集し、講座等の申し込み・受講。
また、中間支援組織等も他の情報を収集し、会員や社員へ情報提供を行い、講座受講等につなげていく。

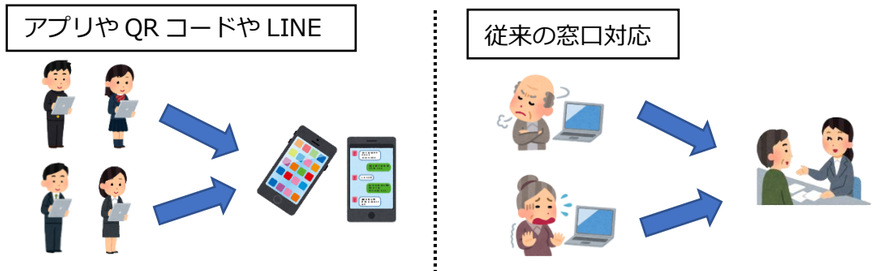


❸　登録

登録の一元化・情報の共有化

・登録のハードルを下げる
「**アプリや QR コードや LINE などで登録（point❶）**」により、ハードルを下げる。

「アプリや QR コードや LINE などで登録」と「従来の窓口対応」を併用（選択式）し、登録を行う。



窓口に来なくても登録が可能に
※ただし、保険は窓口必須

LINE や QR コードができない方は、従来の窓口対応

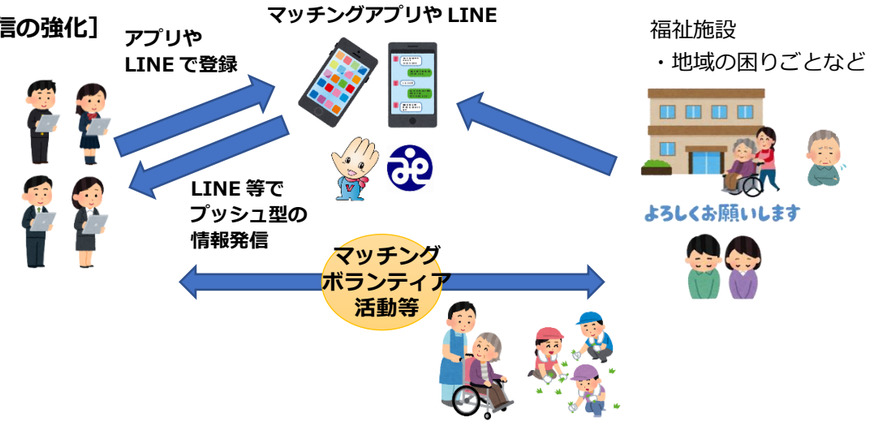
❹　マッチング

活動につなぐ仕組み

・**アプリや QR コードや LINE などでプッシュ型の情報発信（point❶）**の実施

福祉施設や地域の困りごと、依頼事項などを社協に連絡。もしくはマッチングアプリに掲載。
学生や現役世代をはじめとした市民が、アプリや QR コードや LINE で登録。
LINE 等でのプッシュ型でボランティアに関する情報の発信
ボランティア活動へとつなげていく（マッチング機会の増加）。

［情報発信の強化］



プッシュ型の情報発信でマッチングにつながる機会を増やす

・中間支援組織連携のためのコア会議の拡充
コア会議において、地域の困りごとを聞く場を設ける。それにより、コア会議に参画している中間支援組織の会員や社員へ情報を提供

［情報収集の強化］

※イメージ図は⑥　ネットワークにて掲載

❺　定着・フォロー

フォローアップやスキルアップできる体制や講座

・ボランティア情報交換会に学習要素を盛り込む

ボランティア情報交換会

・勉強会等のスキルアップなども順次盛り込む
・情報交換・交流により視野を広げるフォローアップ

・ボランティア講座受講者などのフォローアップの場の開催

ボランティア講座

ボランティア活動

フォローアップ、
スキルアップの場の開催

❻　ネットワーク

土台となる関係機関・団体のネットワーク強化

・中間支援組織連携のためのコア会議の拡充

従来の社会課題に関する勉強会に加え、「交流の場の会」「学生参加の会」「地域の困りごとを聞く会」などを開催していく。

現在

社会課題に関する
勉強会と意見交換会
＆情報提供
を年４回実施

今後

社会課題勉強の会

学生参加の会

交流の会

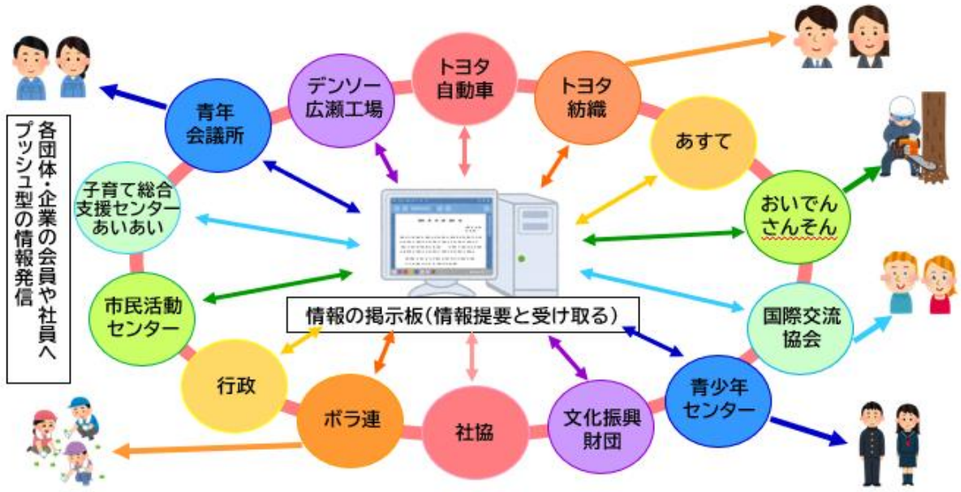
地域の困りごと
を聞く会

・社会課題勉強の会
・交流の場の会
・学生参加の会
・地域の困りごとを聞く会
など、多岐にわたる会の
実施に変更

内容、参加団体（拡充）、頻度、日程などの見直しを検討する。
（例：内容）毎回勉強会ではなく、交流の場を年に１～２回実施する。
（例：参加団体拡充①）学生の参加。
（例：参加団体拡充②）地域の困りごとなどの情報を知っている団体・課の参加（地域支援課・支所地域振興担当　など）

・共同による情報掲示板の実施（情報収集・情報提供）（point❷）

中間支援組織等により「情報掲示板」へ情報提供。
その情報を市民や学校が閲覧・情報収集し、活動へ参加。
また、中間支援組織等も他の情報を収集し、会員や社員へ情報提供を行い、活動につなげていく。



［スケジュール］

	R7	R8	R9	R10	R11
マッチングアプリ	検討	実施 →	→	→	→
アプリ、QR、LINE での登録	検討	実施 →	→	→	→
情報掲示板	検討 →	→	実施		
フォローアップ・スキルアップの場の開催		検討	実施 →	→	→
中間支援組織連携のためのコア会議の拡充	検討	実施 →	→	→	→

上記については、ワークショップから整理した取組の方向性です。
これに加えて、地域人材で必要な取組を、次年度より整理・検討を進めていきます。